

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400348	
法人名	医療法人社団もりもと	
事業所名	GHともさん家(ともさん家) まとめ	
所在地	東伯郡琴浦町逢東1213-1	
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来	
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地	
訪問調査日	令和4年2月9日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロアー歩行、立位訓練、レクリエーション等、個別や集団で本人の力を十分に發揮し体を動かす事を日課として行っている。入居者同士が話し助け合い、お互いを気にしあえる事が出来る環境がある。入居者も職員も日々楽しく笑って過ごせる様に努めている。面会や家族会が出来ない分、広報誌の郵送の際や電話連絡の際に家族に利用者の近況を伝え、信頼関係を維持できるように努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・同法人の病院が隣接しており、医療との連携が密にとれている。一人ひとりが、月に2回の訪問診療と、月1回の理学療法士による評価をうけている。さらに看護師が身体状況を定期的に把握し、体調管理がおこなわれ安心安全に過ごしている。
- ・感染症対策として施設をリフォームし、感染症が疑われた入居者を隔離できる感染対策室と、ユニットの入り口に手洗い場を設置した。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが強がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

### ★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践へ繋がるよう努力をしている	理念と方針をフロアに掲げている。以前は毎朝利用者と共に唱和していたが、コロナ禍により中止している。	理念の共有について意見交換してみてはどうか。
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で出来なかった日常的に交流できていない	コロナ禍のため、事業所や地域の行事が中止となり、交流は行っていない。	地域とのつながりが途絶えてしまわないよう、工夫を望む。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議は開催出来なかった。書面会議を行い意見等を頂いている	役場・区長・民生委員・家族会長へ、利用者の様子・人事・研修予定や報告、行事報告などを書面で送り、電話で意見要望などを聞き取るようにしている。	ヒヤリハット・事故報告も議題に取り上げ、委員からの意見を聞くようにしてはどうか。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告事項やその他必要なことは電話でやり取りし関係を築いている	役場には、3か月に1回、会議録を送り、主に電話での協力関係を築いている。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開催した。アンケートを実施し集計後みんなで結果を共有した。身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に委員会を設置し、3か月に1回勉強会を開いている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、厚生労働省が策定した「身体拘束ゼロの手引き」に基づき、適切に支援している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学び身体拘束や虐待が行われないよう注意を払い努力している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度について今後活用できるよう専門の方々と連携できればと思う。代表者が研修に参加し報告を受け、情報共有している		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、契約書の説明をし家族が不安に思っていることを十分説明し理解していただいている。その後も家族、入居者に対して丁寧な対応をし安心していただいている。コロナ禍のため短時間の説明で対応する		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催していたが、コロナ禍のため開催出来なかった。アンケートを実施し意見、要望を把握し報告している	コロナ禍のため、家族会は開催していない。アンケートを送付したり、電話連絡の際に意見要望を聞き取るようにし、職員間で共有している。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、申し送りノート、会話から意見、提案が出ることもあるので聞く。提案が出たらチームで話し合い日々の業務に反映できるように努力はしている	毎日の申し送りなどで、意見の反映に努めている。職員は申し送りノートにサインをし共有に努めているが、十分ではない。	ユニット会や職員会を開催し、会議録により共有してはどうか。また、理念に沿った年間個人目標を立て、個人面談をしてはどうか。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇加算取得準備委員を選定している。一人ひとりが働きやすい環境、チームとしても働きやすい環境整備をしていくことが必要		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修に参加したり、ユーチューブ、DVD等でも視聴できるよう環境を整えた		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で参加する機会を作れなかった。オンライン研修等で交流することはあった		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いを傾聴し、なかなか言葉にできない方はこちらから聞いて引き出している。思いを共感し特に初期は不安、孤独にならないよう関りを多くもち関係作りに努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを受けとめ関係作りに努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく聞きとりをおこないアセスメントをしてニーズを把握し、必要な支援が出来るように努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や人生歴から出来ることを把握し、役割として職員からお願いしたり、終わった際には労いの言葉をかけるようにしている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回機関紙を発行し日々の様子を伝えている。 年2回の家族会はコロナ禍で出来ていないが窓越しでの面会や電話で家族との時間を大切にしている		
20 (8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でガラス越しでの面会になったが、家族の方、友人の方との時間を大切にしている。遠方の方とは電話で会話をしたりお便りを活用している	ロビーでガラス越しの面会をし、家族や友人ととの関係継続を支援している。家族からの手紙や写真を居室に飾り、いつでも思い出せるようにしている。毎月広報誌に個人の様子を加え、家族に送付している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人を同テーブルにしたりトラブルがないよう席の工夫をしている。耳が聞こえにくい方に対しては職員が間に入り会話の手助けをしたり、共通の話題を出したりと関わり合いをもつてている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先で出会った時は声をかけ、入所されていた時の思い出を話したり、その後の状況を聞いている		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、要望や意見を聞くようしている。家に帰りたい、外に出てみたいの声があれば感染対策をとり対応をしている	日々の生活や会話の中で利用者に寄り添いながら思いや意思を確認している。意思表示が難しい利用者に対しては、表情や仕草から汲みとるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で情報収集をし把握に努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う行動、言動の時は関わり合いを多く持ち様子を見る。介護記録に残し職員で共有している		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気になる事を職員で話し合いより良いケアが出来るよう検討している。必要な時は、先生、看護師、理学療法士などの多職種や家族の意見を聞き、より良いケアができるよう計画に反映させている。家族が面会に来られた時は意見を聞き計画に反映している	気になることがあれば職員同士や、医師・看護師・理学療法士などの多職種や家族の意見を聞き、より良いケアができるよう計画に反映させている。月1回のモニタリングは実施されていない。	毎月モニタリングを実施し、ケアに生かしてみてはどうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を見過ごさず記録している。職員間の情報共有、ノートの活用もしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応できるよう職員、ケアマネと相談しながらしている		

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流は出来なかったが、交流ができるようになれば地域の人と楽しめるよう支援したい		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で病状把握されており、かかりつけ医により適切な医療が受けれるように支援している。特変があった時はすぐに連絡している	★同系列の医院との連携を図っている。月2回の訪問診療だけでなく、急変時の対応も随時行っている。通院は家族対応だが、家族の支援が困難な場合は職員が支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いたことをGHの看護師に相談している。医療機関の看護師に伝え、適切な受診が出来るようにしている		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当初より早期退院に向けて病院関係者と情報交換を電話でし、こまめに連携をとっている		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の事を説明し理解して頂いている。医師、看護師、家族と共に病状説明に立ち合い職員と話し合いをし家族の思いを受け止め支援している。家族との連絡を密にとっている	入所の段階に本人家族に重要事項説明書をもとに終末期について説明し、同意書にサインをもらっている。本人や家族の意向を踏まえ、医師や看護師など多職種のスタッフを交えて何度も話し合いをし、チームで支援している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。マニュアル作成している。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わずに利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災の訓練を昼を想定して実施した。入居者が不安にならないように職員は気を付けて行っている。BCP委員会を選定して地震や水害に備えている	災害時の備蓄は3日分備えている。日中想定の火災訓練を法人で2回実施している。BCP委員会を選定し、策定の準備をしている。地震や水害については訓練は行われていない。	BCPを早急に策定されることを望む。また地震や水害についての訓練も実施してほしい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーの確保に気を付けている。言葉かけや接し方に気を付けていたが時には、家族のように接する場面がありその時は家族のように話してしまう時もある	職員は利用者一人ひとりを尊重した接し方や言葉かけを行っている。親しみを込めて方言を使ったりすることもある。	言葉使いや接遇について意見交換し、振り返ってみてはどうか。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の自己決定を大切にしている。職員同士どのようにしたら本人の思いを引き出せるか話し合いケアをおこなっている。思いを傾聴し共感している		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望にそってケアをしていこうと思うが、職員によっては職員の都合を優先している人もいる		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後化粧水、乳液をし肌を整えている方もある。一緒に入浴の準備をし服を選んでいる。起床時に化粧をしてからフロアに出て来られる方もある		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍なので一緒に準備は出来ないが、同テーブルに座ってゆっくりと見守りながら食事をしていただいている	同法人の厨房で調理された食事をホームで盛り付けし配膳している。利用者の好みに応じて栄養士と相談し代替食を提供している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量、食事量を見ながら提供している。水分がすすまない方にはゼリーを提供することもある		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを伝えながら健康に過ごせるよう毎食後自分で出来る方は自分で、出来ない方は介助で口腔ケアを行っている。義歯や舌、口腔内の確認を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を把握し声掛けをしている。どのような時に汚染、失敗しているのか職員で情報を共有し、パットの種類、トイレ案内の時間方法に反映している	個々の排泄パターンの把握に努め、利用者に合った排泄支援をしている。可能な限りトイレでの排泄を目指している。利用者が使いやすいよう便座の高さも配慮している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトにバナナを入れたり、牛乳、オリゴ糖などで排便を促している。日中の活動量を上げたり、水分を多く摂ってもらっている。排便困難な時はGHの看護師に相談し医師に連絡してもらう		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週2回入浴。入浴に入れなかった時は曜日変更している。当日の体調にも配慮し、無理強いせず入浴してもらう	週2回午前中に入浴している。その日入浴できない利用者には、なるべく早めに日にちを変更して入浴を支援している。ゆず湯など季節を楽しむ工夫をしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室でゆっくり休んでいただいている。夜間は各々照明や温度、布団の調整を行い安眠できるようにしている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用する時は声に出しWチェックし誤薬がないようにしている。朝、昼、夕と色分けし間違いないようにしている。体調の変化がある時は看護師に相談し医師に連絡してもらい連携をとっている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加し楽しんでもらう。誕生会を開き手作りケーキで皆で祝っている。声掛けにて洗濯干し、洗濯たたみ、手作業などして頂きお礼を言うようにしている		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家に帰りたい、畑がみたいと声があった時は個別に関わりドライブがてら出掛けた。近い方は徒歩でも家に帰ることもあり支援している	コロナ禍のため積極的な外出ができないが、感染対策をして個別で散歩に出かけたり、ドライブに行っている。帰宅願望の強い利用者と自宅まで散歩がてら行くこともある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	面会時に家族から本人に現金を渡され自分で管理しておられる方もいる。欲しいものがあれば職員にお金を渡し買い物をもらう		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきたらとりつぎ会話されている。自ら希望される方はいないが、声掛けしあれば支援する		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな声、音が出ないよう配慮している。季節の花をテーブルに飾っている。温度、湿度に気をつけている。照明にも気をつけている	共用空間は広々としており、利用者がゆったりと過ごしやすいよう配慮している。季節の花をテーブルに飾ったり、壁に装飾をしたりして季節を感じられるよう工夫している。また、濡れタオルをかけたり、換気をして湿度や温度などにも気を配っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルの方と話をしながら編み物をしたり、洗濯たたみ、洗濯干しをしていただいている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に自宅での様子を聞きなるべく同じようになるよう、落ち着いて過ごせるように工夫している	居室は整頓され、写真や誕生日カード等が飾られている。利用者によっては、端坐位になったときに見やすい高さに掲示したり、自宅で使っていたものを持ちこむなど、居心地の良い環境になるよう工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気の合う入居者でフロア一歩行などしている。職員は見守りをしている。一人ひとりの能力を職員が日々の生活の中で見極め出来ることはしていただいている		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400348	
法人名	医療法人社団もりもと	
事業所名	GHともさん家（いくさん家）	
所在地	東伯郡琴浦町逢東1213-1	
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先
----------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来	
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地	
訪問調査日	令和4年2月9日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロアーワーク、立位訓練、レクリエーション等、日課として行っています。コロナ禍が続いますが、和やかに毎日が過ごせる様な居心地の良い環境を提供しています。以前は年2回の家族会を開催していましたが、感染対策の為現在はおこなえていません。その分、広報誌に職員からのコメント欄を設け近況をお知らせしたり、電話の際にお伝えして良好な関係が築ける様努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にやったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しづつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍が続き毎朝の唱和は出来てないが、理念と方針を掲示し、各自が理解し実践に繋げる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事(とんさん、秋祭り)が中止となり交流は行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今回も利用者の方の手作りの作品を展示していた文化祭が行えなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面会議を継続している。書面会議では参加者の方の意見、要望等を吸い上げて行政へ報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告事項やその他必要な事は電話でのやり取りを行い関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に「身体の不拘束」を明記し説明をし家族の方に理解して頂いている。 GH内で3ヶ月に1回の身体拘束の勉強会をし、拘束のないケアに取り組めるよう努力している。また、行政に報告している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と合わせて虐待が起こらないよう勉強会を行っている。また、虐待の芽を見つける為のアンケートを行い、結果を共有し職員同士注意し合える関係作りを心掛け日々のケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表の職員が研修会に参加し、他職員は報告を受け、情報を共有し活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書、重要事項説明書を用い説明し、不安、疑問点を尋ねている。また、疑問点等あればいつでも電話等で応じるよう伝え、安心して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させていている	アンケートを送付し意見、要望を聞いた。電話等連絡をとる際にも要望等を聞くように心掛けている。意見、要望があった際は職員間で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや、カンファレンス開催時に意見を聞き、日々話し易い環境作りを行う様努めている。意見は代表者に報告し反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇加算取得準備を選定し、働き甲斐のある職場を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で感染対策を行った上で会場を分散して行ったり、オンライン研修の参加、また、DVD鑑賞をしてアンケート提出する形での研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で参加する機会を作れなかった。琴浦町社協主催のケアマネ研修会に代表者が参加した		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴、共感し、安心して暮らせるよう関係づくりに努めている。また、事前に情報収集し落ち着ける様環境を整えている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報や不安に思うこと、要望を聞きケアプランに反映させている。また、入居後の様子をお知らせして信頼関係を作るようしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞きアセスメントしている。また、ニーズは何なのかを把握し必要な支援に取り組んでいる。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は何なのか見極め、本人のペースで生活して頂いている。また、労いの言葉をかけながら共に生活する関係作りを築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月広報紙ゆとりを発行し、家族の方にも生活の様子を伝えている。一緒に過ごす時間は限られるが、ガラス越しの面会や電話で絆を築いている。年末には写真をアルバムの様にして送り、喜ばれた。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ガラス越しの面会、電話等で関係継続の支援を行っている。家族からの手紙や写真を居室に飾ったりしていつでも思い出せる様にしている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握して、日々穏やかに過ごせる様に席の変更等の環境整備をしたりしている。また、職員が仲介に入り、お互いの思いをしっかりと聞き、関わり合える関係となる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グリーフケア訪問として初盆にはお供えをさせて頂いている。外出先などで出会ったときは、故人の思い出や近況を聞き、労をねぎらう		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中で、やりたい事や行ってみたい所、食べたいもの等希望を聞き出したりしている。表情や仕草を観察し希望に添えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、介護支援専門員からの聞き取りで本人の生活歴や馴染みの生活など把握し情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェック、1回/月の体重測定を実施している。また、年4回のPT評価を参考にして出来る事出来ない事を観察し、心身の状態を把握する努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	PTに移動やROMの方法を相談したり、管理栄養士に食形態やカロリーの相談をして介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践の個人記録、また、申し送り事項があれば申し送りノートを活用し情報共有出来る様にしている。特に排泄(パットの種類やトイレ誘導)や食事(おにぎりにする)など実践・検討し反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や状態が変化した場合は、他職種(Dr, Ns, PT)と連携し、指示を頂いて柔軟に対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、三密を避けてのドライブや紅葉狩り等出かけた。今後コロナ禍が落ち着けば、買い物、毎月お茶会の再開も考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受け、通常の体調把握はできている。特変時にはすぐに対応してもらえる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気づいた事や情報は迅速に看護師等に伝えて、確認、相談をしており、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。また、その都度指示も頂いて連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者との情報交換や相談が出来るよう体制作りを行っている。退院時には担当者会議に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は主治医、職員、家族で病状説明に立ち合っている。職員同志共有し合い、本人の思いをしっかりとみ取り支援に取り組んでおり、家人への状態報告も密にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、マニュアルに添って行動し、家族にも伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も日中想定で年2回の部署毎の火災訓練を実施した。 今後、地震、水害時に備え、BCPを作成し訓練を実施し強化していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーを尊重し、尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った声掛けをするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るようにどちらがいいか選択肢を提示しながら(お茶に時間や上着を着るかどうかなど)声掛けするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないよう、常にその人のペースで過ごせる様、また、一人ひとりの希望を聞き、それに添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には、朝の整容、衣類の選択を行ってもらっている。出来ない方は鏡を見ながら、髭剃りや髪のピン止めを止めるなどの介助をし、きれいになったことを伝えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策の為、準備や片付けは一緒に行っていない。好まれない品に対しては、栄養士と相談をし別の品を提供し食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス管理は栄養士の方に管理して頂いている。食事量が少ない時にはおやつや栄養剤、また、食べやすいようにおにぎりを提供したりしている。飲み物はとろみをつけたり好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施し、仕上げを職員が行い義歯や舌等口腔内の確認も行っている。 また、口腔ケアの大切さを伝えながらしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄リズムを把握し、パットや介助方法を試し、検討し、介護計画に反映している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を使用したり、毎朝牛乳を提供したり工夫している。食事量、水分摂取量には常に意識しながら取り組んでいる。また、個別の運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居の方の要望ではないが週2回の入浴を行っている。入浴拒否のある方もあり時間をずらして声掛けしたり曜日を変えたりしながら入浴して頂いている。状態によっては清拭をする時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1回／週、布団を干したりシーツ交換をしたり、また、季節毎に冷暖房や、寝具等の調整を職員が行っている。また、足元を照らすライトや、センサーライトを使用されている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイル内に薬の処方箋を入れ、目的内容等把握出来るようにしている。変更があった場合は情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、洗濯たたみや干していただきたり、快くして下さる事に常に労いの言葉を伝えている。ドライブに出かけたり、ペランダで過ごしていただいたりしている。利用者同志の会話が弾むよう職員が間に入っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、積極的な外出支援は出来ていないが、感染対策をしながら外気浴や散歩を楽しんだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員で管理している方が1名あるが、必要時は職員が代わりに買ってきている。 今後、コロナ禍がおさまれば買い物等に出かけたいと思っている。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、自ら電話や手紙の希望はないが、声を掛け希望があれば実施するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度等に配慮しながら、ソファーやテーブルで居心地の良い空間作りを行っている。また、安全に歩行出来る様、動線を確保している。 日光の調節、TVの音量、職員の声の大きさも注意する様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染対策を行なながら席の配置には気を配っている。居心地の良い環境整備作りに努めている。 天気の良い日は日向ぼっこが出来る席に案内したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた物や馴染みの物を持ってきて頂き、なるべく安心して過ごして頂けるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常にその人に何が出来るのかを考え、自分で出来る事はなるべく自分で出来るよう見守りし、出来ない場合は尊厳に配慮しつつ介助している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームともさん家

作成日：令和3年3月21日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつながりが途絶えてしまわないよう、工夫を望む	地域とのつながりの継続を図る。	感染対策を十分に行い、面会の機会を継続するようにする。 地域の方と連携が取れるよう、電話などを活用し情報交換をしたりする。	3ヶ月
2	1	理念の共有について意見交換してみてはどうか	月1回のカンファレンスを実施し、意見交換の機会を設ける。	カンファレンスの予定を2日間の日程で毎月計画し、どちらかに参加できるような体制をとり理念の共有も図る	1ヶ月
3	4	ヒヤリハット・事故報告も議題に取り上げ、(運営推進会議)委員からの意見を聞くようにしてはどうか	運営推進会議で事故報告内容の開示をする	議事内容に事故報告も追加し、委員からも再発防止に向けた意見や対策に対する有効性を確認する	1ヶ月
4	11	ユニット会や職員会を開催し、会議録により共有してはどうか。また、理念に沿った年間個人目標を立て、個人面談してはどうか	職員間での理念や情報の共有を図り、理念に沿った支援が出来るように努める	毎月のカンファレンスの実施。議事録を作成し、職員間で共有する。新年度へ向けて個人目標を立て、達成に向けた取り組みが出来るよう面談もしながらサポートする。	3ヶ月
5	26	毎月モニタリングを実施し、ケアに活かしてみてはどうか	毎月モニタリングを行う	計画に対して、毎月モニターする。ご利用者の変化に気づき、適切な計画が提供出来るようにする。	3ヶ月
6	35	BCPを早急に策定されることを望む。また地震や水害についての訓練も実施してほしい。	BCP委員会と連携して策定をする。 火災だけない避難訓練を実施する。	避難訓練の際に地震・水害を想定した訓練を計画、実施する	6か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。